

笑顔かがやく 教育のまち しらおい



安藤尚志教育長

教育行政執行方針

昨年6月、流行と不易を基本にしつつ、VUCA時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）において、今後進むべき教育政策の方向性を示す羅針盤として、令和5年度から9年度までを対象期間とした「第4期教育振興基本計画」が閣議決定されました。

少子高齢化、人口減少、グローバル化の進展、地球規模課題など、さまざまな社会課題が顕在化する中、計画では、教育の果たす役割の重要性と必要性を再確認しながら、教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであるとして二つのコンセプトが掲げられました。

一つ目は「持続可能な社会の創り手の育成」です。受け身ではなく主体性やリーダーシップ、創造力、課題発見・解決

力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを身に付け、自ら持続可能な社会を切り開いていく人材を育成しようとするものです。

二つ目は「日本社会に根差したウエルビーイングの向上」です。多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられるよい状態を教育を通じて実現、向上させようとするものです。

これらのコンセプトの実現に向け、その下には今後の教育施策に関する五つの基本的方針と16の目標が示されました。こうした新たな教育の潮流を踏まえ、**学校教育**においては、引き続き、「令和の日本型学校教育の構築」の具現化に向けて、学習の主体者を教師から子どもたちへ転換し、ICTの活用を図りながら、一人一人の多様な才能・能力や可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを一体的に取り組んでまいります。また、多様な教育的ニーズに対応しながらインクルーシブ教育システムを構築し、共生社会の実現に向けた教育を推進してまいります。

次に**生涯学習**についてです。人生100年時代を迎え、健康で心豊

かに充実した人生を送ることは誰も願いますが、それを実現するためには、私たちは学び終えた人ではなく、常に社会と関わったり、多様な活動に参画したりして、学び続ける人であることが必要です。さらに他者と関わりながら、学んだことを社会の課題解決に役立てることも大切です。そのため、「いつでも・どこでも・誰でも」学び続けることのできる場や環境を充実させてまいります。

また、学校、家庭、地域が連携・協働する地域学校協働活動を通して、子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域住民のつながりを深め、地域コミュニティの基盤づくりに取り組んでまいります。

教育委員会としては、課題は山積しておりますが、時代の要請に真摯に向き合い、白老町教育大綱の推進基本理念である「ともに学び合い、こころひびかせ、笑顔かがやく、教育のまち しらおい」の実現を目指してまいります。

以下、学校教育、生涯学習、そして両者を一体的に推進する地域学校協働活動の順に、令和6年度における主な施策を申し上げます。